

# 第2学年通信(第4号)

令和元年10月25日発行  
福岡県立久留米高等学校  
校長：木本 和宏  
第2学年主任：中尾 朋浩

## 『やってみよう』

2年4組担任：永尾 健太

小学生の息子とドライブするときに声を揃えて歌うのがWANIMAの「やってみよう!」。特に歌詞が気に入っています。「…踏み出そう よじ登ろう 高い山ほど絶景が待ってるから 遠回りの道を選んでみよう 険しい峠には何かがあるさ…」

さて、話は変わりますが、カナダへ旅立つ際にみんなはどのような心持ちでいましたか? 特にホームステイに対しては不安があって当然かと思いますが、その不安はドキドキを含んだものであったかと思います。違いますか?

しかしながら、久留米高校への入学を決めた際に、カナダでのホームステイのことを知らなかった人はいないでしょう。ドキドキが増したのは、ただ異国の空気を楽しむ旅行ではなく、多少の困難が予想されるホームステイ込みの修学旅行を選択したことに他なりません。松下幸之助は「修行時代の若い人たちは、職場の選び方にもむしろ困難な部署を選ぶくらいの心意気がほしい」と著書で述べています。困難な道を選んだ結果、普通の修学旅行よりもよりドキドキできましたし、大きな成長の機会を得ることができました。上出来です。困難にぶつかった時に、どう乗り越えるかが楽しいですし、得るものも大きいはずです。あとは思い切りの良さと準備だけ。これからも楽しんで乗り越えてください。

## 『心理的限界の打破』

2年3組副担任：島塚 富希

「心理的限界を打破しなさい。」この言葉は、私が高校1年生の時の担任の先生が、毎日のおっしゃっていた言葉です。今でも、ことあるごとに、この言葉を思い出します。大人になった今でも、「心理的限界を打破できていないなあ、、、」と思うこともしばしばあります。

一見、ただの根性論のように聞こえるかもしれませんが、でも、何かを成し遂げるためには、欠かせないことのように思います。私たちは、何かに挑戦しようとする時、しなければならないことがある時、

「周りの目が気になるから、、、」「他にやらないといけないことがあるから、、、」「失敗するのが怖いから、、、」「時間がないから、、、」と、やらない理由を見つけるのが得意です。これは、できない理由ではありません。やらない理由です。やらない自分を正当化するための言い訳です。確かに、物理的にできない理由がある場合もあるかもしれませんが、でも、ほとんどが心理的な理由によって、できないのではないのでしょうか。

「できない」と限界を決めているのは、誰ですか? 周りですか? 自分ではないでしょう

か？何かをやらない理由を見つけるのは簡単なことです。でも、きっとそういう人は、その理由が解決されたとしても、また新たな理由を見つけて、やらない言い訳をつくってしまうものです。やっても上手くいかないこともあると思います。壁にぶつかることもあると思います。傷つくこともあると思います。でも、やらなければ、そこに成功も成長もありません。ありきたりな言葉かもしれないし、きっと、皆もこんな当たり前のことは分かっていると思います。でも、今の2年生には、すごく必要なことのように思います。もし、やって後悔があったとしても、それはその時だけのもの。やらなかった後悔は一生残ります。

私も偉そうなことは言えません。日々、「心理的限界を打破できているか。」と自問自答しています。誰かと比べる必要はありません。まずは、自分に負けないこと。2年生も半分が終わり、折り返し地点です。後悔のないように。お互い「心理的限界を打破」できるように、頑張っていきましょう。

## 『森を見よ』

2年4組副担任： 村上 冨香

二学期は行事も多くやるべきことに追われていた人も多かったのではないのでしょうか。私も、夏休みから複数のことを同時に進めなければなりませんでした。

①久高祭の演劇部の劇作り（今年は「昭和みつぱん伝～浅草・橋場二丁目物語～」を上演しました。観ていただけましたか？）、②生徒会の学校紹介の劇作り（アラジンをもとにした「久高と魔法のランプ～A Whole New World～」でした。素晴らしい映像と心震える歌声で、中学生にも好評だったと聞いています。）、③セサミの実地調査（2班だけですが実地調査に同席しました。テレビ取材もあり、貴重な体験となりました）。以上三つのことが同時進行でした。たった三つと思うかもしれませんが、だって、みなさんは④久高祭の学年企画、⑤オープンキャンパスへの参加、⑥修学旅行の準備（書類関係・ガイドブック作成）、⑦大学入学共通テストの手続き、⑧中学生体験入学での学校応援・交流会、⑨英語ディベート大会、⑩個人での活動（国内外での研修、大会）、⑪生徒会・実行委員の仕事、などが加わるのですから。本当に忙しい日々を送り、それぞれで素晴らしい結果を出しています。特に久高祭での学年企画はコアメンバーを中心に学年全体で取り組みました。完成させるためにどれほどの努力や苦悩があったのでしょうか。しかし、完成した感動的な映像と、美しい吊し飾りは見る人の心を打つ、見事なものでした。

このように忙しい日々を送っていると、今やるべきことに必死になり、本来の目標を見失うことがあります。夏休みから二学期に取り組んできたすべてのことは、一つ一つが独立し、完結しているものではありません。つながっています。何のためにみなさんは頑張った（頑張っている）のでしょうか？ぜひとも自分で考えてみてください。そうして、これまでの経験で得たものを本当の意味で自分のものとしてください。「木を見て森を見ず」にならないよう、常に顔を上げ、何のために・今・何をしているのかを考えましょう。



## 【久高祭】

久高祭実行委員長： 2年3組 古賀 夏海

久高祭を通して、改めて自分の学年の素晴らしさに気付かされました。何事にも積極的に、全力で取り組む2学年。そんな2学年を、当日だけでなく、準備期間にも見る度、自分自身、この学年でよかったと心の底から思いました。実行委員長という立場はとても大変でした。時には悩みすぎて、眠れない日もありましたが、久高祭当日の放課後、達成感でいっぱいになっていた私は、涙を流してしまいました。それほど、久高祭が楽しかったからです。しかし、それは実行委員を中心とした多くの生徒や先生方が協力してくれたおかげです。本当にありがとうございました。でも、この2学年だからこそ、まだまだ積極的に、受け身にならず出来るのではないかと思う場面がありました。もう自分たち2学年が久留米高校を引っ張っていく番です。悪かった所を改善し、笑顔の力で2学年らしく、久留米高校を盛り上げていきましょう。

学年企画チーフマネージャー： 2年1組 池尻 葵

久高祭お疲れ様でした。私はチーフマネージャーという責任ある仕事をする中で、様々な困難を経験し、たくさんのことを学びました。特に、計画を立てる事と実行する事の大変さ、周りに気を配り正確に指示する事の難しさ、みんなを巻き込んで一緒に頑張ろうとする雰囲気づくりや、丁寧に準備をして行動に移す事の大切さなどを実感しました。これらのことを経験し、解決に向けて努力したことで自分の自信に繋がり、自分を成長させることができたと思います。2学年全員、そしてたくさんの先生の支えがなければ、2学年企画は成り立ちませんでした。久高祭を通して関わらせて頂いた全ての方に感謝をしています。本当にありがとうございました。

【久高祭ギャラリー】 久高祭の賑やかな雰囲気をいくつかの写真でご紹介します。



折り紙でできた美しい吊るし飾り



華やかなバトン部



書道部による素晴らしいパフォーマンス



吹奏楽部による見事な演奏

【 行 事 予 定 】

10 月	29日(火)	暴力団排除教室
	2日(土)~3日(日)	進研模試
11 月	5日(火)	防災非難訓練
	9日(土)	久高セミナー PTA 進路講演会
	11日(月)	考査時間割・範囲発表
	14日(木)	マラソン前健康相談
	21日(木)~26日(火)	期末考査
	26日(火)	ワックス塗布
	30日(土)	出前講座

